

注目

基礎を含め最適設計提案

量↓機能へ市場変化も捉え

日鉄物産システム建築

システム建築に対する市場ニーズが量から機能がシフトする中、日鉄物産システム建築(本社・東京・宇野智社長)

は、高品質な鋼材を安定供給可能な日鉄グループの総合力と、独自の基礎システムと鉄骨システムを生かした製作・施工現場の省力化・短工期を強みに、危険物倉庫や冷凍・冷蔵倉庫を中心に高まるニーズに対応していく方針。

システム建築市場では近年、これまでの延べ床面積1万平方メートル超の大規模物流倉庫に加え、中小

規模の地域型倉庫の需要が全国的に広がりを見せ

ている。背景には、EC物流のラストワンマイル拠点設置や、トラックドライバの働き方改革を受けた輸送網見直し、さ



危険物倉庫の需要も高まる(写真は一宮運輸の「物流センター熊本」)

施設展開をサポート

システム建築

らに危険物倉庫や冷凍・冷蔵倉庫の急速な需要拡大があるという。

特に危険物倉庫では、EV普及によるリチウムイオン電池需要の増加、半導体製造用化学品の保管需要の増加、芳香剤などの日用品や化粧品、洗剤のEC物流増加が市場の成長をけん引すると見込まれている。

危険物倉庫の場合、普通倉庫とは異なり消防法上で原則平屋建て・延べ床1000平方メートル以下・軒高6メートル未満の制限があるため、複数棟が連なって建てられるケースも多い。

強み発揮できる危険物倉庫

このことから「危険物倉庫はシステム建築のコンセプトに極めて適した領域」と鶴田貴也取締役営業管理センター長が

ロジエクト営業チーム長。

高度な法規対応が必要とされ、実績とノウハウが受注拡大の鍵を握る分野で過去5年間で20件39棟の施工実績を持つ。特に首都圏エリアでの施工実績が全体の半分近くを占め、強固な営業基盤を確立している。

同社のシステム建築では、①平屋専用規格型の「T10(ティオ)」②2階建てが可能な規格進化した型の「NEO(ネオ)」③自由設計型の「TREO(トレオ)」——の3商品を展開。そのうち、危険物倉庫ではティオが主力商品となっている。

部材の工場製作による品質一貫管理と施工現場省力化といったシステム建築の一般的な特長とともに、「当社の強みとなっているのが全商品で採用している独自の6種類

の基礎システム」(鶴田取締役)。通常の基礎工事では必要な型枠工や鉄筋の手配が必要となる。基礎から建物まで一貫した管理を可能とすることで、工期は従来工法と比べ約30%の短縮につながっている。

ニーズ対応に万全の体制で

市場ニーズに対しては東・中・西日本の全国3ブロックで迅速に対応することともに、鶴田取締役がリーダーを務めるプロジェクト営業チームが全社横断で広域対応に当たり、万全の体制を整えている。顧客である施工主に対し、独自の基礎システムの優位性をより一層訴求しながら、危険物倉庫のような法令上の制約条件が多い案件でもさらに存在感を高めていく考え。(矢田 健一郎)